

中村支所管内より

純米吟醸とみやま おいしく出来上がりました!

四万十市の山間部、富山（とみやま）地域では、日本酒の原料となる酒米「吟の夢」を栽培しています。地域おこしにも一役買っており、地元の園児や児童、生徒、関係機関を招き昨年5月25日に田植え、9月22日に稲刈りを行いました。その後、同市の蔵元「藤娘酒造株式会社」が酒造りを行い、12月17日に新酒の試飲会を開催。オーナーや生産者、関係機関を招待し約50人が新酒の「とみやま」を味わいました。

藤娘酒造（株）の矢部社長は「今年は香りが出ている。温度が高いことで香りの成分が出て、りんごのほかにも香りが混ざっておいしい」と話していました。試飲した参加者も「いつもよりスッキリしている。その分たくさん飲めるね」と笑い、賑やかに出来立ての新酒を祝いました。



田植え



収穫



幡多
地区

から こんいちほ
今月の〇〇 気になる人

幡多地区管内より

女性大学はた小町すてっぷあっぷコース 令和5年度最終講座のクリスマス アレンジメント

第11期女性大学はた小町すてっぷあっぷコースは12月5日、今年度最後の講義と修了式を開催しました。最後の講義は、フラワーショップ双葉園の梅原薫先生によるクリスマスアレンジメント。「モミ」、「バラ」、「スプレーカーネーション」、「レンファレ」、「サンキライ」、「ヒメスギ」などを使い給水スポンジに挿していきました。

先生が初めに基本の形や美しく見せる方法を説明。その後はみなさんのひらめきで思い思いに挿していきました。「モミ」や「松ぼっくり」を使いクリスマスらしいポップな仕上がりに華やかさも、皆さんそれぞれ本当に素敵なクリスマスアレンジメントが出来上がりました。



リーフレット一新

中村支所おおきみ部会

大玉で香り高く、その存在感は宝石のよう。高級イチゴとして大阪や東京の百貨店で取り扱われる以外に、タイやシンガポールなど6カ国・地域に輸出しているイチゴ「おおきみ」。化粧箱は黄金色であでやか。フタを開けると重厚感のある黒が基調でイチゴが映えます。今回、同梱するリーフレットを新しくしようと取り組む中、生産者全員の顔が見えるよう集合写真を撮影しました。

この日は、野口会長を中心に部員全員で全戸巡回する現地検討会を開催。巡回は年に6回行い、毎年大阪や豊洲市場へ出向き商談会も欠かしません。令和5年12月4日～5日には、東京シティ青果（株）、名古屋にあるおおきみの苗株を委託している（株）ベルディへ。日頃よりコミュニケーションを取り情報を共有しています。

JAグループ高知の通販サイト「とさごころ」にてお買い求めできます。

中村支所管内より



東京シティ青果（株）にて商談会



西土佐支所管内より

菜園コンクールで経験値アップ! 女性部西土佐支部

女性部西土佐支部は12月8日、菜園コンクールを開きました。部員の家庭菜園の技術を向上しようと毎年行い、60年以上続く活動です。同支所酒井支所長や岡村営農指導員、高知県幡多農業振興センターら6人が、栽培品目数、生育状況、鳥獣害対策、病虫害防除、管理状況、利用状況を審査し採点します。この日は部員ら37人が参加し8件の菜園を巡回しました。

同地区津野川の芝藤千代さんは、約8アールに長ネギ、ハクサイ、ナバナやレタス、コールラビ、カリフラワーやロマネスコなど10種類以上を栽培。大きく育つ野菜を見た部員らの質問に、芝藤さんは「土には堆肥を入れる。農業は使わず、連作にならないよう場所を変えて作っている」と説明しました。審査の結果や表彰は4月に行う同支部の総会にて行う予定です。



ハート型

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



競技を楽しむ地域のみなさん。

1 西土佐支所

第31回農民運動会 4年ぶりに開催！

青壮年部西土佐支部と女性部西土佐支部は12月2日、第31回農民運動会を開催しました。地元を元気に、そして、親睦を深める為毎年行っていました。コロナ禍により今年4年ぶり。地域の方、JA、市、農業公社など約50人が集まり、地元の名産をチーム名に「小ナス」、「イチゴ」、「ナバナ」、「ゆず」の4チームで競技を行いました。

競技は、「猪追い」や「走れ百姓」、小ナスや米ナス、いごっそうなすなどをバトンにした「ガチンコリレー」、「愛の韻運び」、箱から少しだけ出ている長短さまざまなひもを一本選び引っ張り抜いて10人が繋いで長さを競う「今日の運勢」など10種。シントウのバック詰め競走を盛り込んだり、イノシシのお面をかぶり後ろからムチで誘導しながらゴールを目指す競技、5人1組で藁を長い長さを競うものなど参加しても見ても楽しいユニークなものばかりでした。

競技では手をつないだり力を合わせたり、拍手や温かい声援を送り楽しい時間を共有しました。



苗の状態を見て意見や質問が飛び交いました。

2 中村支所

おおきみ部会 出荷向かえ現地検討会

中村支所おおきみ部会は12月19日、出荷目前となったブランドイチゴ「おおきみ」の現地検討会を開きました。「おおきみ」は高級イチゴとして百貨店などで取り扱う他、シンガポールやタイなど6カ国・地域に輸出し、その割合は部会の出荷量の5割を占めます。同部は10人が所属し、作付面積合わせて約100アール。部員同士で苗の生育を見て学べるよう、全員で全戸を巡回する現地検討会を年に6回実施しています。

14アールで栽培する二宮孝二さんは、10月5日に定植しました。ハウスに入るなり部員らが「きれいに作って」と感嘆の声。葉の色、花の数や大きさ、これから大きくなり色づく実の果形などバランスが取れ、大きくて果形のきれいなものがたくさん採れそうと部員らが予測していました。また、徒長気味の苗の今後の対策や摘果など部員同士で教え合いながら巡回。野口典久会長は「ちよっとした変化で生育がガラッと変わる。同じことをしても立地条件や環境で違ってくる。各ほ場を見ることで学ぶ機会となる」と話しました。

出荷は1月初旬から本格化しています。今年も味と品質にこだわった果実の出荷に取り組んでいます。

3 中村支所 よさこいミディトマト研究会 目慣らし会開催



選別基準を確認する会員のみなさん。

中村支所よさこいミディ研究会は12月5日、本格化する出荷に合わせて目慣らし会を開きました。同会は会員11人がトマトの品種フルティカトマトを「よさこいミディ」として出荷しています。

目慣らし会には、会員、高知県幡多農業振興センターやJAなど10人が参加。会員らは糖度基準7度以上を維持し、品質の統一を徹底するように確認。また、集荷したトマトを階級別に分け、色や大きさなどの選別基準を確認しました。フルティカトマトは中玉品種で、1玉40〜50gが理想。200g袋で1玉の大きさが家庭の核家族化や一人暮らしなど少量購入にも適応しています。令和5園芸年度の出荷量は138t、令和6園芸年度は150tを目指します。

4 宿毛支所 厳しい環境を乗り越えた「さがほのか」出荷本格化



元気に実ったイチゴを収穫しています。

宿毛支所イチゴ部会では「さがほのか」の収穫が本格化しました。同部会ではイチゴの品種「さがほのか」を「だるまいち」とブランド化し出荷。主な出荷先は大阪や県内、認知度を上げるため生産者や出荷量を増やしていきたいと取り組んでいます。

12月26日、農業公社「スタートアップカルチャー」すくもでは研修生らが収穫作業をしていました。同公社の事務長二宮一寿さんは「今年は育苗から定植、現在まで厳しい環境だったと話していました。12月下旬のこの時期も乱高下の激しい気温の中でイチゴは赤く実り、これから肥大していく実がたくさんかかっています。同公社は約20アールに高設栽培と土耕栽培で約1万1千株を栽培しています。収穫は11月下旬から始まっており、3月ごろに最盛期を迎えます。

5 中村支所 しまんと農法米寄付金授与式 四万十川清流保全基金へ



授与式に臨む出席の皆さん。

中村支所は12月20日、しまんと農法米の寄付金授与式を行い、生産者7人とJA、四万十市長などが出席しました。

しまんと農法米は毎年、売り上げの一部を「四万十川清流保全基金」に寄付しています。授与式では、同支所経済課福留正二課長がブランド米としてPR活動等を行った実績等を報告しました。中平正宏市長は「四万十川一斉清掃などの清掃活動、環境学習活動、森林の保全活動に活用している。寄付金に込められた四万十川保全に対する思いをしっかりと受け止め有効に活用する」と感謝しました。

6 幡多地区 防災意識も向上 消防訓練実施



消火訓練をする職員の皆さん。

幡多地区本部は12月20日、四万十消防署の立会いのもと消防訓練を行いました。非常ベルが鳴り、担当者が速やかに火元を確認し初期消火へ。また、非常口を開錠して避難路の確認をしたり、避難誘導訓練では館内放送、実際に119番通報するなど、火災発生から避難するまでの一連を訓練しました。その後、水消火器を使って消火訓練を行いました。四万十消防署は「お客様は非常ベルで驚き混乱する。火災発生場所などを確認したら落ち着かせて誘導してください。職員は避難口を把握しておいてください」と呼びかけました。

初心者（家庭菜園）向け スイカ



作り方のポイント

- ①野菜のうちではもっとも強光を好み、生育適温も夜間15℃以上、昼間28℃～30℃と高いので、日当たりの良い場所を選ぶ。
- ②深植えしすぎないこと。とくに接ぎ木苗は、接ぎ木部分を埋めないようにすること。
- ③本葉5～6枚で親づるを摘芯し、子づる3本に整枝して絡み合わないよう配置する。
- ④肥料が多すぎると「つるぼけ」を起こし着果しにくくなる。

年間の作付計画

●: 植え付け ■: 収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地						●	●	●	●	●	●	●

① 畑の準備

- 植えつけの2週間くらい前に苦土石灰（1㎡あたり2握り）を施し耕しておく。
- 1週間くらい前に、畝1m当たり
 - 堆肥 3～4握り
 - 油粕 大さじ4杯
 - 千代田化成 大さじ2杯
- 畝幅90cmくらいに畝立てをします。株間は80～100cmほど開けます。

② 植え付け

- 本葉4～5枚の健全な苗を植え付けます。接ぎ木部分が埋まらないように深植えしない。高温を好むので、植え付けは気温が十分に高くなってから。
- 畝全体に黒色ポリフィルムをマルチングして地温の上昇を図る。

③ 摘芯・整枝

- 本葉5～6枚頃に親づるを摘芯し、子づるを伸ばします。
- 勢いのよい子づるを3～4本残し、他はかき取ります。
- つるが重ならないように配置します。子づるから発生する孫づるは着果節以下は早めに取り除き、過繁茂を防ぐ。

④ 敷きワラ・マルチ

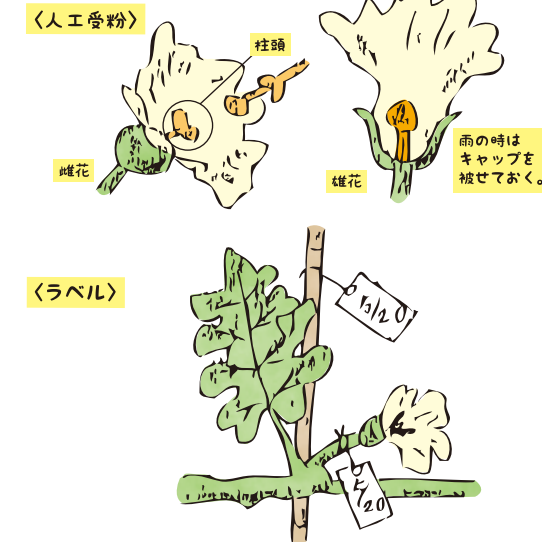
- 子づるが1mくらい伸びてきたら、2・3回に分けて通路に敷きワラをします。（黒色ポリフィルムでも良い）



つるは風で動かないよう竹や木の柱で留める。

⑤ 人工授粉

- 花のガクの下に膨らみがあるのが雌花、ないのが雄花。
- 雄花の花弁を取り除き、雌花の柱頭に花粉を軽くこすりつける。この作業は花粉や雌花の寿命を考えて、開花した日の朝方、8時～9時までには終わるようにする。
- 交配した雌花には、交配日を記したラベルを立てておくこと収穫期の目安になる。



⑥ 追肥

- 1回目は植え付け20～25日後に、2回目は果実が“茶わんだ”に肥大した頃に施し、それ以降は草勢を見ながらつるに触れない様に、畝間に施用します。施用量は、1回目は1株当たり油粕大さじ1杯。2回目は1株当たり千代田化成大さじ2杯。

⑦ 玉直し

- 実がソフトボールくらいになったら位置を変える。果実を返して白いところがないように着色を均一にする。

⑧ 収穫

- 交配後40～45日（大玉）小玉は30～35日ほどで収穫できる。交配日を記したラベルをもとに、若干試し取りをして収穫期を判断する。

役立つ！ 得する！ 情報 えいのう～

幡多農業振興センターより

水稲の低コスト栽培について

近年、肥料・農薬などの資材の高騰により水稲栽培の経営が厳しくなっています。特に令和5年度は肥料価格が高騰し、前年の40%以上値上がりした肥料もあります。

そこで、肥料価格高騰による農家負担を軽減するため、リン酸、加里を除いた窒素単肥肥料と鶏糞を用いた低コスト施肥実証試験に取り組みましたので、その結果をお知らせします。

1. 実証試験の概要

- ①水稲品種：とよめき、イクヒカリ ※施肥量の多い飼料用米で実施
- ②供試肥料：窒素単肥①＝窒素成分40%の側条施肥用窒素単肥（コート肥料）
窒素単肥②＝窒素成分30%の側条施肥用窒素単肥（コート肥料）
市販飼料用米肥料＝リン酸、加里を含む飼料用米専用肥料
鶏糞＝市販の粉状の鶏糞堆肥
※窒素単肥①、②とも肥料メーカーが試験用に作成



ブロードキャスターによる鶏糞散布

表1：実証試験区の設定

実証地区	試験区	鶏糞堆肥		試験化成肥料			水稲品種	定植	備考
		施用量	肥料名称	成分量 (%)	施肥量 (kg/10a)	窒素施用量 (kg/10a)			
四万十市	試験区1	150kg/10a	窒素単肥①(40%)	40-0-0	18.9	7.6	とよめき	4月10日	鶏糞11月散布
	試験区2	150kg/10a	窒素単肥②(30%)	30-0-0	33.3	10.0			鶏糞2月散布
土佐清水市	試験区1	150kg/10a	窒素単肥①(40%)	40-0-0	18.5	7.4	イクヒカリ	4月18日	鶏糞11月散布
	試験区2	150kg/10a	窒素単肥①(40%)	40-0-0	19.7	7.9			鶏糞2月散布
	試験区3	150kg/10a	窒素単肥②(30%)	30-0-0	24.9	7.5			鶏糞2月散布
	対照区	150kg/10a	市販飼料用米専用肥料	30-5-5	27	8.1			鶏糞2月散布

2. 実証結果

表2：実証試験の生育・収量調査結果

実証地区	試験区	出穂期	収穫期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	全重 (kg/10a)	ワラ重 (kg/10a)	籾重 (kg/10a)	収量 (kg/10a)	千粒重 (g)
四万十市	試験区1	7月8日	8月16日	72.0	21.4	308	1,486	678	794	639	22.7
	試験区2	7月8日	8月16日	77.6	21.8	289	1,493	644	836	667	22.7
土佐清水市	試験区1	7月8日	8月15日	72.9	16.4	387	1,240	538	680	555	22.6
	試験区2	7月9日	8月15日	68.9	16.1	354	1,201	529	662	543	23.1
	試験区3	7月9日	8月15日	72.0	16.3	405	1,215	504	700	575	23.3
	対照区	7月7日	8月14日	71.3	16.6	354	1,213	500	691	563	22.2

- 各試験区の収量はすべて500kg/10aを超えており、また、肥料の種類による差はあまり無く、対照の市販飼料用米肥料と同等か、それ以上の収量となりました。
- 鶏糞の散布時期が冬季（11月）でもあまり収量に差は見られませんでした。

3. コストの比較

- 最も単価の安かった窒素単肥①（窒素40%）と鶏糞150kg/10aの組み合わせと、市販飼料用米肥料を窒素成分9kg/10aの投入量で比較すると、窒素単肥①と鶏糞の組み合わせが500円/10a程度安くなりました。

令和6年度は前年度より肥料価格が下がることが見込まれていますが、今後も肥料価格は高くなっていくことが予想されます。試験結果を参考に、土づくり資材としても活用できる単価の安い鶏糞を利用した、肥料のコスト低減に取り組んでみませんか。

お問い合わせ先
幡多農業振興センター 佐田 哲幸 (TEL. 0880-34-7070)

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

ゆずの季節になりました。みんな集まれ！ユズ加工品を見てびっくり!! ジュース、お茶、モナカまであるんですね。すごい。ゆずのポン酢しか知らなかったです。

(宿毛支所管内・38歳)

ユズ加工品がいろいろあるんですね。ビックリ。ゆずカラッソ購入して食べます。

(十和支所管内・72歳)

今回のクイズの正解者のプレゼントは柚子ギフトセットとのこと。ゆず玉ネギ、ゆずごまドレッシングなど絶対美味しい!! と思いき、頑張ってクイズに挑戦しました。当選すれば嬉しいですね。

(中村支所管内・73歳)

高知の県内のゆずの加工品がいろいろあり、どれもおいしいそうな物ばかり!! 県外に住んでいる知人にも送ってみたくなりました!!

(大方支所管内・68歳)

ゆずの書き方で、片仮名で書いているのは何か意味があるのですか?

(宿毛支所管内・77歳)

▼「ユズ」をカタカナ表記にしている理由は、新聞では「動植物の名称は原則としてカタカナで書く」としていることから、広報誌もそれに倣ってカタカナにしています。

「和菓子処おおいし」いつも買っているおおいしが取り上げられ、大変嬉しく思いました。いつも季節のお菓子が美しく並べられ、あれもこれもと迷っています。

(中村支所管内・84歳)

練り切りが色あざやかでほんとうに見て楽しくなりました。近くなので行ってみようと思いました。

(西土佐支所管内・63歳)

和菓子おおいしそう。おおいしのおかし食べたことあります!

(宿毛支所管内・55歳)

練り切り「和菓子処おおいし」可愛い。なんとお菓子ではないような、色とりどりで食べるのもったいないなね。

(宿毛支所管内・72歳)

▼12月号のこちットのイチオシで四十万市内にある「和菓子処おおいし」をご紹介しました。取材させていただいた大石尚史さんはJAの女性大学「すてっぶあつぷコース」の和菓子作りの講師としてお招きされています。これまでも練り切りの他、桜もち、わらび餅など教えていただきました。原材料にこだわった美しい和菓子。心身ともに幸せを感じます。みなさんぜひ足を運びください!

今年の春に幡多に帰って住むようになり、家庭菜園を始めました。白菜に虫がいつぱいで食べられなかったり……。失敗もいっぱいですが、楽しみながら育てています。

(中村支所管内・59歳)

▼野菜づくりに挑戦されているんですね。どれくらいできるかわくわくしますね。本当におっしゃる通り、家庭菜園を楽しむことが大事ですね。

先日、菜園コンクールに連れて行ってもらいました。皆様さすがにきれいに草を引き、みごとな野菜を作られていました。初めて目にする野菜もあり、すごく楽しかったです。私ももっと頑張って「凄いな」と言ってもらえるような野菜作りをしたいです。

(西土佐支所管内・66歳)

▼女性部西土佐支部の長きにわたる活動ですね。私も取材に同行させていただきました。どの畑もよく管理されていて、野菜が立派でいきいきとしていました。また、雑草対策や地温を保つなどの工夫がありました。なりました。みなさんの野菜作りが好きなこと、子どもさんやお孫さん、お友達等に食べてもらいたいという思い、何より楽しんでいることが伝わってきました。



家の光図書 新刊のお知らせ



●『榎本美沙の発酵づくりおき』
榎本美沙 著
定価：1,650円(税込)

味噌、塩こうじ、甘酒、ヨーグルトなど、身近な発酵食品を使った作りおきレシピ。発酵の力で時間がたつほど味に深みが出るうえ、肉も魚もやわらかいまま。作りやすく体にやさしいから、ずっと続けられる。



●『ふんわりとろける米粉のシフォン』
中山真由美 著
定価：1,760円(税込)

『決定版ふわふわ、しっとり、とろけるシフォン』待望の続編はバラエティ豊かな29レシピ。飲み物がいらぬほどのなめらかな食感に、米粉ならではのもちもち感が加わった優しい味わいの極上シフォン。



●『賀川豊彦と考えるボランティア』
賀川豊彦とボランティア実行委員会 編
定価：600円(税込)

日本の協同組合の父と呼ばれる賀川豊彦は、関東大震災の際に復興支援を呼びかけ被災地支援のあり方を模索した「ボランティアの父」でもあります。賀川の支援活動の先駆者や、現在まで続く影響をまんがで紹介。